<table>
<tr><td rowspan="3">科目名

（科目番号）</td><td rowspan="3">発達障害理学療法治療学

（時間割参照）</td><td rowspan="3">教員名</td><td rowspan="3">小林　聖美　他</td><td>学科等</td><td>理学療法</td><td>必修</td><td>履修年次</td><td>3</td></tr>
<tr><td>曜日・時限等</td><td colspan="2">時間割表参照</td><td>単位数</td><td>2</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>オフィスアワー</td><td colspan="2">火6・A316研究室（小林）</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="8">こどもの障害は、性別、年齢、障害に関わらず様々であり、個々のライフサイクルを考慮にいれて理学療法を実施する必要がある。特に、発達の初期に問題のある小児期障害の理学療法では、対処の良否がその後の人間の生涯発達に大きく影響する。本授業では、正常運動発達の理論と発達過程の知識を整理・応用する能力を身につけ、脳性麻痺を中心に小児期障害の理学療法に関して、臨床像の把握・評価・問題点の抽出及び治療計画の作成・再評価、更に関連する治療技術までを系統的に学習する。</td></tr>
<tr><td>目的・目標</td><td colspan="8">目的：小児における代表的な疾患である脳性麻痺児の障害像を理解し、評価・治療の概要を理解する。
目標：脳性麻痺児の障害像を理解するための評価と基本的な治療方法について説明が出来る。</td></tr>
<tr><td>準備学習</td><td colspan="8">毎回の授業の到達目標と学習内容を十分に理解しておくこと。</td></tr>
</table>

授業計画 回	授業項目	到達目標・学習内容
1	正常運動発達	到達目標：正常運動発達の理解が障害児の理学療法になぜ必要かを理解する。 学習内容：VTR教材を用いて正常運動発達について再度学習する。
2	脳性麻痺の一般的知識 姿勢反射	到達目標：脳性麻痺の多様性について理解する。また発達に伴う姿勢反射について理解する。 学習内容：脳性麻痺の疫学、臨床像などについて学習する。
3	脳性麻痺の動作分析1	到達目標：正常動作の観察し、動作を表記できる。また動作を遂行するために必要な機能を説明できる。 学習内容：正常動作の動作観察と筋活動について学習する。
4	脳性麻痺の動作分析2	到達目標：動作遂行を阻害する要因について、正常動作との比較をして説明できる。 学習内容：移乗動作の観察と移乗動作となる原因について学習する。
5	評価(1)	到達目標：筋緊張・変形・拘縮の評価を正確に実施し、結果の解釈ができる。 学習内容：筋緊張、変形・拘縮の評価方法について学習する。
6	評価(2)	到達目標：深部腱反射・病的反射の評価を正確に実施し、結果の解釈ができる。 学習内容：深部腱反射・病的反射の評価方法について学習する。
7	評価(3)	到達目標：自立的反応・協調性・発達の評価を正確に実施し、結果の解釈ができる。 学習目標：自立的反応、協調性・発達評価について学習する。
8	評価(4)	到達目標：感覚検査の評価を正確に実施し、結果の解釈ができる。 学習目標：感覚検査の評価方法について学習する。
9	評価(5)	到達目標：前回までの評価を正確に実施し、結果の解釈ができる。 学習目標：前回までの評価について再学習する。（実技試験）
10	評価(6)	到達目標：前々回までの評価を正確に実施し、結果の解釈ができる。 学習目標：前々回までの評価について再学習する。（実技試験）
11	脳性麻痺の理学療法	到達目標：関節可動域練習を実施できる。 学習目標：脳性麻痺児への基本的な運動療法を学習する。
12	脳性麻痺の補装具	到達目標：療育児に必要な福祉用具の適用について考えることができる。 学習目標：脳性麻痺の下肢装具、車いす、座位保持装置等について学習する。
13	重症心身障害児の 摂食・嚥下・呼吸	到達目標：摂食・嚥下障害・呼吸障害に対して基本的な対応ができる。 学習内容：重症心身障害児の臨床像について学習する。
14	ケーススタディ1	到達目標：症例に対して基本的な評価を実施し、対処方法を考えることができる。 学習内容：症例を通して検査測定・統合と解釈・治療プログラムの立案を学習する。
15	ケーススタディ2	到達目標：症例に対して基本的な評価を実施し、対処方法を考えることができる。 学習内容：症例を通して検査測定・統合と解釈・治療プログラムの立案を学習する。

成績評価の方法・基準	対面時：中間試験30％・実技試験30％・期末試験40％ オンライン時：中間試験30％・口頭試問30％・期末試験40％		
教科書			
参考図書			
教員からのメッセージ	実技試験・口頭試問は評価表に沿って採点を行います。 病院・在宅で小児理学療法に関わった理学療法士がこの授業を担当します。 オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知します。		